

【主要指標推移】	03上期	02上期	増減
油価 (USD/BBL)	25.5	25.0	0.5 ( 2%の上昇)
為替 (YEN/USD)	118.1	123.1	5.0 ( 4%の円高)
金利 (%)TIBOR	0.10	0.09	0.01 ( 11%の上昇)

## 2003年度上期 連結決算及び通期見通し (米国基準)

損益の状況	2002年度 上期実績	2002年度 通期実績	2003年度上期実績		2003年度通期見通し	
			前年同期比	達成率	前年同期比	達成率
(単位:億円)						
売上高 (期初見通し比)	63,256	133,287	75,124	11,868	148,000 (+5,000)	51%
売上総利益 (期初見通し比)	3,492	7,186	3,780	288 (+8.3%)	7,650 ( 100)	49%
販売費及び一般管理費	2,939	5,954	3,114	175	6,350	49%
貸倒引当金繰入額	137	226	4	133	100	4%
営業利益 (期初見通し比)	416	1,006	662	246 (+59.0%)	1,200 (+0)	55%
利息(受取利息差引後)	73	140	76	3	150	51%
受取配当金	178	282	100	78	250	40%
有価証券損益	149	431	108	257		
固定資産損益	89	56	31	120	200	51%
その他の損益	56	53	24	80		
税引前利益 (期初見通し比)	405	608	787	382 (+94.5%)	1,500 (+0)	52%
法人税等	195	383	346	151	800	43%
少数株主持分	28	80	65	37	150	43%
持分法による投資損益	173	397	230	57	450	51%
会計原則変更による 累積影響額	81	81	0	81	0	-
中間(当期)純利益 (期初見通し比)	436	623	606	170 (+39.0%)	1,000 (+0)	61%
基礎収益(*1) (期初見通し比)	831	1,771	920	89	1,850 (+50)	50%

(\*1)基礎収益 = 営業利益(貸倒引当金繰入額控除前) + 利息収支 + 受取配当金 + 持分法による投資損益

資産と負債の状況	2002年9月末	2003年3月末	2003年9月末		2004年3月末	
			前年度末比	上期末比	前年度末比	上期末比
総資産	77,401	80,979	81,128	149	82,500	1,372
(流動資産)	36,418	39,221	39,347	126	41,000	1,653
(投資及び長期債権)	25,596	25,100	25,817	717	25,500	317
(有形固定資産ほか)	15,387	16,658	15,964	694	16,000	36
株主資本	10,016	9,371	10,858	1,487	11,500	642
有利子負債 GROSS (*2)	40,316	39,129	40,226	1,097	41,500	1,274
NET (*2)	36,422	35,261	35,827	566	37,500	1,673
有利子負債倍率 GROSS	(4.0倍)	(4.2倍)	(3.7倍)	( 0.5倍)	(3.6倍)	( 0.1倍)
NET	(3.6倍)	(3.8倍)	(3.3倍)	( 0.5倍)	(3.3倍)	-

(\*2)有利子負債には「割引手形」及び「FAS133適用による影響額」を含めておりません。

キャッシュフローの状況	2002年度 上期実績	2002年度 通期実績	2003年度 上期実績
営業活動によるCF	1,524	2,703	739
投資活動によるCF	519	244	747
フリーキャッシュフロー	1,005	2,459	8
財務活動によるCF	1,278	2,827	714
現金及び現金同等物の増減額	382	464	751

金属資源事業の堅調な推移及び海外自動車事業の伸長が寄与  
航空機関連のリース資産の取得等によるもの  
調達環境の好転を受けて長期資金の調達を実施したものの

### 2003年度上期決算の概要

【概要】  
過去最高レベルの営業利益・基礎収益・連結純利益を達成  
収益の3本柱である「エネルギー事業」「金属」「生活産業」が堅調に推移したことに加え、海外自動車事業の伸長により「機械」が大幅に増益し、新たな収益の柱になった。  
このため、営業利益は前年同期比59%増の662億円、基礎収益は前年同期比11%増の920億円、連結純利益も前年同期比39%増の606億円を達成した。  
連結純利益は、米国PIRI社株式売却益を1,086億円計上した2002年度上期を除くと上期決算としては過去最高であった前年度を更に大きく上回り、基礎収益でも最高益を更新した。

不良資産償却の減少  
Exit戦略やポートフォリオマネジメントによる資産の「選択と集中」により資産の健全化が図られた結果、不良資産償却が前年に比べ大幅に減少し、好業績に貢献した。

過去3年上期の収益・償却額推移

株主資本が1兆円回復  
好業績を背景とした当期利益の積み上がりに加え、株式市場の回復や為替換算調整勘定の改善により株主資本が2003年3月末と比較して1,487億円増加となり、1兆円台を回復した。

### 2003年度上期決算 主な増減内容(前年同期比)

a. 売上総利益(+288)  
主にアジアでの自動車販売が好調に推移したこと、石油関連製品や石油化学品の市況が好転したことに加え、メタルワン設立の影響もあり、売上総利益は前年同期比8%増加した。

b. 販管費( -175)  
メタルワン設立の影響や食料関連子会社の業容拡大により、総利益増加見合いに販管費は増加した。

c. 貸倒引当金繰入額(+133)  
前年度、機械関連取引にて多額の貸倒費用を計上した反動により、貸倒引当金繰入額は大幅に改善した。

d. 金融収支( -81)  
エネルギー資源関連の配当減少により受取配当金が減少した。

e. 有価証券損益(+257)  
・上場有価証券評価損...+66[ 1 67]  
・不良資産償却関連損失...+77[ 70 147] (売却損及び評価損)  
・その他株式売却損益等...+114[+179 +65]

f. 固定資産損益( -120)  
前年度、親会社で保有不動産の売却益を計上した反動により、固定資産損益は減少した。

g. その他の損益(+80)  
海外子会社で売上代金にかかわる為替差益が増加した。

h. 持分法による投資損益(+57)  
主に、エネルギー資源関連やアジア・欧州の自動車関連会社が好調に推移したことに加え、ローソンの増益もあり前年同期比33%増加した。

### セグメント情報

【全てのオペレーティングセグメントで黒字を確保】

セグメント別連結純利益の推移

【主な増減】  
新機能事業...ローソンの持分利益増及び前年度償却の反動増により増益。  
エネルギー事業...石油関連取引の増益と海外資源開発会社の好調により増益。  
金属...豪州石炭関連子会社の堅調とメタルワンの好調な滑り出しにより増益。  
機械...海外自動車事業の増益と不動産開発事業の好調により増益。  
化学品...石油化学製品市況の好転により増益。  
生活産業...親会社での食料取引利益減少により前年同期比減益。

### 2003年度通期業績見通し

【概要】  
2001年からの3ヵ年計画「MC2003」集大成の年として、連結純利益1,000億円を目指している。期初見通しに対する売上総利益・営業利益・基礎収益など主要項目の達成率は50%前後と略予定通りに推移しており、営業利益1,200億円、連結純利益1,000億円の業績見通しに変更はない。

【主な項目】  
i. 営業利益...1,200億円  
連結子会社化を予定していた会社の連結が延期になったため、総利益、販管費がそれぞれ、期初見通し比100億円の減少となる見込み。  
営業利益は期初見通しと同様1,200億円と見込んでいる。

j. 税引前利益...1,500億円  
期初見通しに比べ、利息負担に改善が見込まれるものの、それ以外の損益が若干悪化する見込みのため、税引前利益は期初見通しと同様の1,500億円と見込んでいる。

k. 当期純利益...1,000億円  
当期純利益についても期初見通しに変更はなく、1,000億円と見込んでいる。